

## 精神障害者の社会的役割喪失に対する援助論

Discussion of how to help a person with mental illness, who is robbed of social role

三橋真人

MABITO Mitsuhashi

東海学院大学

TOKAI GAKUIN UNIVERSITY

Key words: a person with mental illness, help, stigma

### 目的

三橋(2003)は「精神障害者は自己肯定感が低いのではなく、社会的役割を奪われているのではないか」という仮説に至った。例えば、精神障害者の自助グループのメンバーは「会計を行う、旅行の幹事を行うこと」で仲間を援助したと答えた。自助グループには「役割」があり、「患者役割」ではなく、社会人としてのつながりというか、社会人の接点を持っていることを実感できているのではないか。このような仮説をもとに、精神障害者の社会的役割の現状と今後どのような彼らの社会的な役割形成について検討したい。

### 方法(文献レビュー)

仮説について、社会学的視点から、特に、ミードの役割論、ゴフマンのアサイラムや、スティグマ等の理論から、社会構造上の問題から、精神障害者は社会的役割を奪われているのではないかについて検証を行った。

精神障害者の QOL を決定する要因は、多次元的で、複合的であるため、端的にいうことは難しいことが先行研究から分かる。影響要因、経済的状況、社会的支持、家族関係、就労等が重要な要因としてあげられていることが分かる。

**社会的な自我形成:** ミードによると、自我は他者との相互行為を通じて他者からの自分に対する役割期待を身につけることによって発達する。たとえば、子供が服を泥まみれにして帰ってきたとする。母親は機嫌を悪くして「服はきれいにしなさい」と注意し、汚れた服を着替えさせた。こういうことが何度かあると、子供は、身だしなみはきれいにしなければならないという役割期待を学習するだろう。ミードはこういう役割期待を身につけることを役割取得という。

第一段階は意味ある他者からの期待に応えた役割取得、第二段階は社会の全体、つまり、一般的他者からの期待に応えた役割取得である。このように二段階で形成された自我の影響について検討したのがゴフマンである。

**自己呈示と強いアイデンティティ:**ゴフマンは、自分のアイデンティティを積極的に呈示する自己呈示の過程とともに、アイデンティティが他者から強いられて形成される過程について論じている。

ゴフマンは、全制的施設において、被収容者のアイデンティティが変容させられる過程を論じている。ここでいう全制的施設とは軍隊、修道院、監獄、精神病院など、「多数の類似の境

遇にある個々人が、一緒に、相当長期間にわたって全体社会から遮断されて、閉鎖的で形式的に管理された日常生活を送る居住と仕事の場所」のことをいう。これをスティグマという言葉を使い説明しているゴフマンは、スティグマを持つ人々が社会生活にいかに対応しようと試みるかを検討したのである。

### 結果

わが国の精神障害者への福祉施策は身体障害者・知的障害者に対する施策に比べて大変に遅れていた。それには、理由として、一つは、長い間、精神障害者は医療の対象としか見てこられなかったことである。1993年、「障害者基本法」が制定され、はじめて精神障害者も障害者であることが明文化された。二つめは、「精神保健福祉法」はあるものの、独立した「福祉法」が存在しなかった。

他者との関係が自己形成を構築するツールであるが、精神障害者は他者との積極的な接触が少ないことが考えられる。こうしたことから、彼らの QOL 向上に精神障害者の地域生活には、①住居、②日中の活動の場（デイケア、作業所など）、③個別の生活支援、④所得の保障（含む就労）、⑤医療・保健サービスなどが必要である。障害者総合支援法下でも精神障害者の生活支援の環境はまだ不十分である。

### 考察

**新たな役割の構築の可能性:**精神障害者の社会的な役割の向上には、就労できる場の提供が重要であると考えられる。しかしながら、仕事には就いたものの、仕事上の技術不足や対人関係の困難等で、生活のしづらさに悩むことが推察される。そのためには、ジョブコーチなどを活用した就労支援や職場の環境改善が求められているといえる。また、仕事でのストレスや人間関係等による QOL の低下を防ぐための相談援助などの支援体制も求められるといえる。そして、何よりも偏見なき社会の構築が急務の課題である。

### 参考文献

ミード/稲葉三干男 他訳, 1973, 『精神・自我・社会』青木書店. 原著: *Mind, Self, and Society*, 1934年  
三橋真人, 2003, 「精神障害者のセルフヘルプグループの機能に関する研究」上智大学大学院修士論文 上智大学  
ゴフマン/石黒毅訳, 1984, 『アサイラム』誠信書房. 原著: *Asylums: Essays on the Social Situations of Mental Patients and Other Inmates*, 1961年